

文化財探訪(その九)

「久次米家墓所」

近年吉野川や近世の阿波経済また古文書などを勉強する人たちから、「久次米銀行の経営者であった北新居の久次米家の地元には何か残っていませんか。」と尋ねられることがあるが、不動地域には墓所に立派な墓が存在するだけです。

十七世紀に材木商としてまた監商人として、江戸・大阪で阿波商人の意気を見せた「て」印の大坂屋庄三郎(久次米市佐衛門)夫妻のお墓を中心として、四世より兵次郎を襲名した当主夫妻のお墓が並んでいる。

明治に至るまでの一門の方々で、五世昌義・六世義峰・七世義恭・八世義簡・九世義周とみんな夫婦一対づつ久次米家に関係深い不動北町二丁目の真覚寺墓地に眠っている。

久次米家のお屋敷は現在の名田橋、不動側から第三橋脚付近を中心に広大な屋敷地と豪壮な邸宅で、本家を囲んで一族の屋敷があり、協力して本家の事業を進めていた様で、一族の氏寺として屋敷地の西側に真覚寺

を建立したと云う。

二十世紀初期から始まった吉野川堤防改修工事によって、真覚寺墓地は堤内の現在地に移転し、久次米家墓所は地元世話人の努力により、本家・お向かい・新家・お裏の順に昔の配置にあわせて並んでいるが、栄枯盛衰の習い墓石の中には、建立者の信仰心の軽重や経済力の趨勢が見られる、特に久次米家全盛時代ものは芸術的な味わいが見られる。

(文化財保勝会)



地域と共に歩む

不動中学校

九年の十一月五日、徳島市。佐那河内村同和教育研究会が本校で開催され、公開授業を中心として、本校の実践の様子を市内の先生方に参観していただきました。参観された他校の先生が書かれた感想をご紹介します。

○「ふるさとがあるのは、いいなあと実感しました。根をはって生きていくという事です。生徒が次々と発表する様子を見て涙が出そうになりました」

○「生徒の意見発表に耳を傾けているうちに、生徒間の信頼感が声にならない声として聞こえてきました。安心して自分を語る仲間づくりがすばらしいと感じています」

○「生徒の中から「今の伝統を守っていいこう」「昔にくらべてよくなった」「その裏には地域のみんなのがんばりがあった」と次々に意見が出て、教師の方からではなく、生徒が主となって活動しているのがすばらしい。

○「地域の先輩方から「昔の仕事」「食肉センター」など町の差別の現状を聞き生徒に再確認させたうえで身近なところから差別に對しての憤りを出し合い高まりあった。地域との連帯の大切さを学んだ」

○「明るい雰囲気、包み隠さず自分たちの気持ちを語れるよい授業だ」と感じた。一年生で越境通学を問題意識として持っているのに驚いた。不動地域に對して自信を持っている様子が生徒たちからも感じられた。

○「生徒が自分自身の考えをしっかりと持ち、高い人権感覚を持っているのに驚いた。これは不動学園として地域と一体化して小学校からしっかりとした人権教育を行ってきた成果だと思ふ。

○地域のことが本当に好きだという生徒が多いと感じた。生徒自身が差別に對して怒りを持ち、真剣に取り組んでいる姿に感銘いたしました。

○「自分の学校は県下一だと思ふ」という生徒の発言を聞き、うらやましく思うと同時に、わが身を反省させられました

せられました

○生徒一人一人が、差別に對して自身の問題として真剣にとらえ考えていることに大変感銘しました。先生方そして地域一体の努力の成果だと思ひます

以上、たくさんいただいた感想の中から、その一部を紹介しました。町民の皆様と共に力強く育っている子どもたちを、今後とも手を携えて見守っていききたいものです。

今年度は、体育・文化面でもすばらしい成果を収めることができました。その折には、皆様より物心両面にわたり多大なご支援、ご協力をいただきました。紙面をお借りして厚く御礼申しあげます。

不動中学生の活動記録

一九九八年度(平成十年)

◎県中学校陸上競技大会

走幅跳(一位)中山智弘

棒高跳(一位)大野開成

砲丸投(一位)山尾 怜

砲丸投(二位)久次米順

◎通信陸上徳島県大会

走幅跳(一位)中山智弘

棒高跳(一位)大野開成

砲丸投(一位)出崎浩司

砲丸投(二位)久次米順

三種B(一位)中山智弘

三種B(六位)丸山功祐

八百m(八位)久次米弘也

◎MBS子供音楽コンクール 優秀賞

(西日本大会出場)

◎四国大会陸上(松山)

◎男子学校対抗の部(準優勝)

◎個人

三種B(一位)中山智弘

(四国中学校新・大会新)

走巾跳(一位)中山智弘

(大会新)

砲丸投(一位)山尾 怜

砲丸投(五位)久次米順

棒高跳(四位)大野開成

棒高跳(五位)出崎浩司

◎全国大会陸上(天童)

走幅跳(一位)(大会新)

7m00 中山智弘

◎市陸上大会

Aブロック 優勝



ワールド 優勝
◎合奏コンクール 優良賞

◎同和問題啓発ポスター
特選 中谷亮太
準特選 久米雅人
入選 近藤理絵

日野祐子
藤井真由美

◎市人権作文コンクール
最優秀 大野開成
優秀 佐藤美咲

◎市非行防止弁論大会
優秀賞 大原未来

◎市明るい選挙啓発ポスター
銀賞 下塚潤一
入賞

川口智史・山内勇氣
◎四国造形教育生徒作品展
特選

川口智史・山内勇氣
◎市音楽創作コンクール
入選

清水祐子・井原亜由実
◎県中郡市対抗陸上大会

◎団体（学校対抗の部）
男子 総合優勝

◎個人
走巾跳（一位）中山智弘
棒高跳（一位）大野開成
棒高跳（二位）出崎浩司
砲丸投（一位）山尾 怜
砲丸投（三位）久次米順
八百m（六位）久次米弘也

おやっぴいっぴい考える

不動小学校

去る十一月十八日、平成十年度学校保健委員会が本校において開催されました。参加者は、学校医の坂本先生、保護者、児童保健委員会、教職員の合わせて三十二名です。高血圧、糖尿病、肥満、高脂血症等の食事や運動等の生活習慣に関係する病気（生活習慣病）を子どもの中から予防することについて話し合いました。まず、養護教諭より本校

児童の健康状態について報告があり、続いて児童保健委員会より、本校四・五・六年児童を対象に行った「おやつ調べ」の結果について発表がありました。その結果、よく食べるおやつは「スナック菓子類」「チョコレート菓子類」が多く、ジュースは平均すると、夏二・七本、冬一・九本飲んでいることがわかりました。また、おやつやジュースの

カロリーや含まれている砂糖の量を調べて表にし、実際量を提示しました。なかには、一缶に三十九gも砂糖が含まれているジュースや、スナック菓子一袋で五五七キロカロリーもあるものがありました。こどもだと早歩きで約四時間も歩かないと消費できないカロリー量であることを発表すると、参加していた保護者や教職員からも驚きの声が上がっていました。

その後、坂本先生より生活習慣病が多くなった理由や、予防について指導していただきました。様々な原因がありますが、やはり子どもたちの運動量の減少や食生活の変化に伴って摂取カロリーが増えたこと、生活リズムが夜型になってきていること、肥満の増加等が主にあげられます。

おやつは子どもの成長に必要なものですが、とり過ぎると肥満や生活習慣病につながる心配があります。食事は規則正しく三食とり、お菓子は袋から直接食べずお皿に小分けして食べたり、ジュースは缶口から飲まずにコップに分けて飲む等、ご家庭でも気をつけていただきたいと思います。

参加者が感動するほどの有意義な会合でした。



お母さんついでついで

不動幼稚園

◎オリエンテーリング

十一月十八日、親子で蔵本公園へ徒歩で出発。「子どもたちは最後まで歩けるのかな」という大人たちの心配をよそに、約一時間で元気に到着。道中交通量の多さに驚きながらも、親子で歩くことの効果や、交通规则を学ぶ、よい機会となった。オリエンテーリングでは、なぞなぞやしりとり親子で挑戦。寒さなん



かなんのその。子どもの楽しそうな姿が印象的だった。

◎もちつき

十二月五日、天候に恵まれず室内でのもちつき。天候にもめげず、お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、学園の先生方の協力を得て、活気ある楽しいもちつきとなった。初めてみる杵をぎこちなく持つ子どもたちに、大人たちが手をかしてくれ、おいしいおもちが出来上がった。子どもたちは、手伝ってくれた人に「ありがとう。」と声をかけながら、つきたてのおもちをほおばった。



不動幼稚園では、家庭教育を学級を中心に、親子のふれあいを深める活動を進めてきた。今回はその一部を紹介した。幼児は親の愛情

を基盤に心も体も育つ。最近では親子の会話やふれあいが少なくなってきたと言われるが、これは子どもの成育に大きな影響を与えている。幸せに生きる力の核心部分が幼児期の様々な体験にあることを思い、家庭・地域・園が一体となりこれからもこのような活動に取り組んでいきたい。



やさしい環境を子ども達に

不動保育所

地域に根ざした保育所づくりをめざして、私達不動保育所においては、子ども達との生活の中で、さまざまな活動に取り組んでおります。

その中でも今、社会の中で関心の高まりつつある「環境問題」について、みんなで考えてみようという事で、ささやかな第一歩を踏み出しています。

「限られた資源を大切に。」を合言葉に、まず身近な生活のゴミを分別したり、みんなで知恵を出し合ったり、使えるものはリサイクルするなど、保育に生かしております。

廃品廃材を利用しての手づくり遊具や、親子で作ったペットボトルのかわいいフラワーポットなどは、保育室内外の環境の一部となって飾られ、不動保育所全体を、やさしい雰囲気包んでくれているようです。

また、全町運動会で使ったアルミ缶やペットボトルの巨大ドラムの遊具では、親子でこちよい汗を流して楽しんでる姿が、とて

も印象的でした。

その後、巨大ドラムは、ふる里カーニバルやクリスマス会等の行事の中で、大活躍をしました。

一方、部屋の片隅に置かれていた五つの大きなゴミ箱にも、日々出されるゴミが分別され、少しずつ子ども達の生活に浸透してきたようです。

日々の積み重ねで、幼い時から分別意識が育つてくれればと思います。

そして、捨てればゴミになる空容器や空箱また牛乳パックなどは、子ども達の創造力を刺激して、手づくりおもちゃや、小物などに变身します。

今、豊かな時代だからこそ、日々の活動を通して物を大切に作る心そして、リサイクルして作ることの楽しさや手づくりのぬくもりなどを、しっかりと子ども達に伝えていきたいものです。

おりしも、今年より徳島市においても、ゴミ減量対策として分別収集が実施されますが、不動保育所も、

そのモデル保育所として指定されました。

背のびせず、できることから保育所のみならず、保護者の方々にもさらには、地域全体へとゴミの減量化に向けて、またリサイクルの輪が広がればと思います。

そして、安心して健康な生活が送れるよりよい環境を、子ども達に引き継いでいきたいものです。



成人おめでとう

平成十年度

不動町新成人名簿

◎男子

- | | |
|-------|-------|
| 石川 正豊 | 小林 憲太 |
| 川村 道寛 | 山田 憲吾 |
| 樋口 貴大 | 中口 正幸 |
| 佐藤 健太 | 佐藤 良太 |
| 高木 悟 | 山田 浩章 |

原田 泰彦 藤本 佳史

尾形 友和 丸山 裕司

元川 裕文 松田 泰臣

増井 祐治 山田 慎也

佐山 幸充 井坂 高康

山田 拓哉 岡部 康弘

徐 輝 原田 昭仁

施 健 長井 学

◎女子

仁木 珠実 渡邊 恭子

佐藤 仁美 佐藤 素子

中山 裕美 七條 則子

中野 陽子 藤井 久枝

坂本 梨奈 佐々木教子

中山 早知 上原 亜希

吉本 真弓 上原 ゆり

竹中 美和 佐藤 千鶴

鎌田ひとみ 西林 未希

吉永真里子 菅條佳余子

住野 美和 板東 史恵

丸山 美保 米澤 京子

藤岡 亜希 生藤 知恵

計 52名

鮎喰川左岸 堤防除草作業

全町あげての堤防除草と美化作業が今年も実施されました。

十二月一日(火)から

十二月(土)までの五日間、

延べ二百五十五人が取り組

みしました。今年も天候にも

恵まれず、降雨のため日数

が多くなり除草完了は十二

日(土)の午後となりました。

まいりました。

一日(火)は不動小学校

五・六年児童が、四日(金)

は不動中学校全生徒が、そ

れぞれ空き缶、空きビン、

ペットボトル等をつづつ

拾って、町の美化のために

汗を流してくれました。

五日(土)は朝雨に降ら

れたものの不動橋西側の作

業がはかどりました。

六日(日)は晴天のもと、

前日に引きつづき東進して

行き、六日(日)は晴天の

もと、樹木の伐採と搬出も

含めて、徳工グラウンド付

近まで美しくなりました。

日没のために作業中断とな

りましたが、不動消防分団

の方々には焼却処分まで夜分

まで大変お世話になりました。

最終の十二日(土)は、

旧弁天橋まで手を広げ、文

字通り見間違えるほどに美

しくなりました。あとは通



行するドライバーの方々と良識あるマナーに期待して報告を終わります。参加されたみな様どうもありがとうございました。

徳島市公民館大会

十一月五日

郷土文化会館

表彰者

高齢者教室 秦 廣記様
女性学級 元川洋子様

開会行事では市公民館連
合会長に就任した岸岡俊憲

館長の挨拶のあと表彰式が
行われ、不動町から右の二

名の方が表彰されました。

学習発表会では、本町を

代表して婦人会の十二名の

方々が日本舞踊「荒城の月」

を披露してくれました。こ

としも出演順が後半に当たっ

てしまいました。熱演に

対して好評の拍手をいただき

ました。

発表会終了後の、お楽し

み抽選会では本町方々の中

からも当選者が続出し、秋

の一日を有意義のうちに過

ごすことができました。

